

報告番号：㊦・乙 第 1797 号		氏名： 小林 勇仁	
論文審査 担当者	主査 教授 大野 芳 正 印		副査 教授 松村 一 印
			副査 教授 山本 謙吾 印
<p>審査論文の題目： An outbreak of severe infectious diseases caused by methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> USA300 clone among hospitalized patients and nursing staff in a tertiary care university hospital (三次医療大学病院の入院患者および看護スタッフにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌USA 300クローンによる重症感染症アウトブレイク事例)</p> <p>著 者：著 者： Takehito Kobayashi, Hidemasa Nakaminami, Hiroshi Ohtani, Kanako Yamada, Yutaka Nasu, Shunsuke Takadama, Norihisa Noguchi, Takeshi Fujii, Tetsuya Matsumoto</p> <p>掲載誌：Journal of Infection and Chemotherapy (in press, 2019)</p>			
<p>論文要旨：</p> <p>メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) USA300クローンは、白血球溶解毒素(Panton-V alentine leucocidin: PVL) を産生する代表的な高病原性の市中感染型MRSA(CA-MRSA)であるが、近年は市中・院内いずれも検出数が増加傾向にある。本研究では、東京都多摩地域三次医療機関の1病棟において、6人の患者および1人の同病棟医療スタッフに発症した重症MRSA感染症について解析を行った。これらの症例より分離されたMRSA 7株を対象として、PCR法によるPVL遺伝子(<i>lukS/F-P</i>リ、アルギニン代謝系 可動性遺伝子構造(ACME) 構成遺伝子(<i>arcA</i> and <i>opp-3C</i>)の同定およびSCC<i>mec</i> typing、multilocus sequence typing (MLST)、pulsed-field gel electro phoresis (PFGE) による解析を行った。すべての菌株は、PVL遺伝子およびACME構成遺伝子を保持し、SCC<i>mec</i>、typingではtype IV、MLSTではST8に分類され、USA300クローンと同様の遺伝子型であった。さらに、PFGEではすべての菌株が遺伝子相同性を示し、同一のUSA300クローンによる病棟内アウトブレイクと判断された。初発患者では入院時検体よりMRSAが検出されており、院内への持ち込みがアウトブレイクの発端と考えられた。感染制御部の介入によりアウトブレイクは終息し、全ての患者は適切な治療により治癒した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市中感染型MRSA、院内感染型MRSAの現状について適切に説明がなされた。 2. 市中感染型MRSAの分類と診断法に関する質問に対して適切な回答がなされた。 3. 今回のアウトブレイクの状況と感染制御対策に関する質問に対して適切な回答がなされた。 4. 今回分離された7株の特徴に関する質問に対して適切に回答がなされた。 5. 本研究結果を踏まえ、感染制御における今後の展望について適切に述べられた。 <p>価値判定：</p> <p>本研究は、USA300 クローンのCA-MRSAによる健康な医療従事者を含めた院内の重症感染症アウトブレイクを本邦で初めて報告したものである。分離菌の詳細な解析により、その病原性や同一性を証明した。本研究で得られた結果は、国内におけるこのタイプの菌に対する今後の感染制御対策に大きく貢献するものと判断し学位論文としての価値を認めた。</p>			